

薬剤師募集のご案内

九州グループには28の病院があり、がん、循環器病、精神疾患、神経筋疾患、成育医療、腎疾患、重症心身障害、骨・運動器疾患、呼吸器疾患、免疫異常等の19の分野の政策医療に取り組んでいます。薬剤師は医療の担い手として、医薬品を通して質の高い医療の実現に努力しています。またチーム医療を通じて患者の治療に貢献し、専門職に相応しい知識と技術を提供することができます。さらに知識や技術を研鑽させる臨床研究を行うことも可能です。医療に積極的に関われる国立病院機構は、皆さまの応募をお待ちしています。

国立病院機構薬剤科の特色

研修が充実

- 感染症防止のための研修
- がん化学療法におけるチーム医療研修
- 栄養サポートチーム研修（認定に必要な40時間実習を含む）
- 治験コーディネーター養成研修
- 医療安全に関する研修
- 新採用者研修
- スキルアップ研修

など、多くの研修を実施しています。

研究等の実施が可能です

- 国立病院機構独自の共同研究
- 厚生科学研究（他施設との共同研究）
- 国立病院機構総合医学会での発表
- 院内研修の実績と発表
- 各種学会での発表

治験の推進を支援しています

- 治験コーディネーターとして、臨床研究を支援します
- 治験センター業務及びCRC業務を担当

先輩からのメッセージ



がん専門薬剤師 として

別府医療センター
鳥山 陽子

がん専門薬剤師として、医師や看護師など他職種と協働してがん薬物療法に関わっています。がん薬物療法の適正化という面で薬剤師の担う役割は多岐に渡ります。中にはレジメン管理や副作用対策の標準化、スタッフ教育、患者への指導があります。更に実際の患者とのやり取りのなかで判明した副作用に対する処方提案、その後のフォローも重要です。新しい薬剤が次々と承認されるので日々の研鑽は欠かせませんが、患者さんからの「ありがとう」に遣り甲斐を感じて日々業務に取り組んでいます。



病院薬剤師 2年目として

九州医療センター
森本 清香

九州がんセンターで実務実習を受けたことがきっかけで国立病院機構への就職を決め、九州医療センターで働き始めて2年目になりました。国立病院機構には、先輩薬剤師から自然に適切な指導・助言を受けられる環境があり、調剤業務、抗がん剤調製業務、病棟業務など日々の業務を通して様々な経験を積み、多くの知識を習得することができました。また、教育プログラムも多数準備されており、日常業務以外でもやりがいを持って働くことができ、充実した日々を過ごしています。



病棟常駐薬剤師 として

熊本医療センター
木村 修徳

私は今年から血液内科病棟の常駐薬剤師として活動しています。化学療法の施行頻度がとても高く、患者さんの状態が日々変わることも多いため病棟全体の把握をすることも大変ですが、病棟に常駐することで医師や看護師からの情報を迅速に収集でき、日々の業務に活かすことが出来、やりがいのあるとても充実した毎日を送れています。まだまだ知識が足りず自分の無力さを痛感する毎日ですが、日々研鑽を重ね成長し続けていきたいと思います。



新規採用者研修会



注射薬調剤



抗がん剤調製



医師へ処方提案



病棟業務



回診に同行



患者参加の教室で説明